甲斐市立敷島小学校　自己評価書

令和４年２月１０日　（金）　作成

校長　　竹野　貢造　　記述者　職名（教頭）　増坪広夫

学校教育目標　「知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな子どもの育成」

学校経営方針

教育諸法の精神を基に，山梨県及び甲斐市の教育方針に則り，変化の激しいこれからの社会を生き抜くために，「確かな学力」，「豊かな心」，「健やかな体」の知・徳・体をバランスよく育てることが大切である。

そのために，本校職員は家庭・地域社会と連携し，教育者としての使命感をもち，自己研鑽に励むとともに，一致協力して本校教育目標の具現化に努める。

１　全体評価

・児童のアンケート結果を見ると，全ての質問に対しても肯定的な回答が多く見られた。今年度は 28 項目中 21 項目が昨年度を上回る結果となった。特に「学校の授業は楽しいですか」の項目では昨年より「Ａ：とても楽しい」が１２ポイント上昇した。職員の日々の教育実践の成果が大きく反映しているように思われる。唯一，昨年度より否定的な回答が増加したので「今住んでいる地域の行事に参加していますか」で，「Ｄ：参加していない」が 13 ポイント増えた。新型コロナウイルス感染症予防による行事の取りやめや自粛する生活習慣が定着したからと考えられる。

・教職員による自己評価については，全ての項目において大変肯定的な結果となった。特に 39 項目中 27 項目で「Ａ：とてもそう思う　Ｂ：そう思う」の合計が 100％となった。また昨年度と比較すると，39 項目中 36 項目が昨年度を上回った。顕著に「Ａ：とてもそう思う」が上昇した項目は，「個に配慮した基礎・基本の定着を図る授業を行っている」が 46 ポイント，「特別な教科の道徳を通して，豊かな心を育む授業を行っている」が 40 ポイント，「開かれた学校づくりに努めている」が 50 ポイント上昇した。令和の日本型教育の推進が注目されているが，職員の教育に対する意識の高さがうかがえる。

・保護者のアンケート結果では，時間を問う項目を除いた 23 項目中 20 項目が大変肯定的であった。昨年度との比較では，「学校は楽しいところだ」「ゲームなどの使用ルールを決めている」などの 5 項目が上回り，「ＰＴＡ活動や地域の活動への参加」などの 3 項目が下回った。下回った原因の１つとして，感染症予防に伴い学校行事や地域活動等が中止となったことが影響していると考えられる。

・児童と保護者の比較では，「学校は楽しい」の項目で肯定的な回答が，児童が 95.6％，保護者で 93.5％であったが，少数ではあっても否定的な回答があったことから，その原因を探っていくことが大切である。

・全般的に教職員・保護者・児童の結果は，どの項目も肯定的な評価であった。学校が多くの子どもたちにとって楽しい居場所となり，学校生活の中で自分の力を発揮して活躍できる場が確保されていると考えられる。今後とも個に応じた指導は気を緩めず指導していきたい。また，対話的で深い学びによる質の高い教育を目指すとともに，つまずきのある児童への効果的な手だてや個々の児童を伸ばすための指導を工夫し確かな学力の習得に努めたい。肯定率が伸びている内容については更なる向上を目指し，肯定率が低下した項目については状況を精査して自己改革を図りたい。課題については解決に向けた具体策を講じるとともに，今後も信頼される開かれた学校づくりに努めていくことが重要であると考える。

２　項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

Ⅰ　学校教育目標に関して・学校経営について

達成状況	・本校では学校教育目標が学校経営方針を踏まえたものになっており，昨年度よりも肯定的な回答が上昇していることから，教育活動の根幹として意識されているといえる。 ・学級担任をはじめ，各分掌における全職員が，学校経営方針に基づき教育活動を行っていることがわかる。また，教育実践は，教育活動計画に沿って実施されていることがわかる。 ・「報告，連絡，相談，確認を行っている」では，A評価が昨年より 21 ポイント向上し 97%となった。コロナ感染症に対応する保護者からの問い合わせなどを含め，校内での連絡体制がしっかりできているといえる。 ・全体的に肯定的な回答が多い中，更に改善していく項目として「ＰＤＣＡサイクルで教育活動に取り組む」が挙げられる。昨年度に比べA評価が 20 ポイント上昇したがトータルでは 50%を超えるくらいなので改善の余地がある。
改善策	・教育の効果というものは測定しにくいものがあり，曖昧になりがちである。「ＰＤＣＡサイクルで教育活動に取り組む」については，今後も継続して取り組む必要がある。毎年，教師も子供も入れ替わっており，事情が違った中で起こる出来事を比較していくことの難しさは課題である。「その計画は目標にあっているか」「計画に基づいて実行されているか」「評価の基準は適切であったか」「改善策に具体性はあるか」など，今後も検討していく必要がある。

Ⅱ　学校運営について（保護者用アンケート等も含めて）

達成状況	・全ての項目で昨年度より平均 15 ポイントほど肯定的な回答が多くなった。 ・今後改善していく項目として「危機管理マニュアルの理解」と「校務支援システムの活用」が挙げられる。 ・「業務の効率化と働き方改革」については，肯定意見は多いが今後も改善する必要がある。 ・保護者アンケートでは，肯定的意見が多く，A 評価で「学校は楽しいところだ」が 5 ポイント，「事業参観等が子どもを知る機会になっている」が 7 ポイント向上した。また「相談できる先生がいる」ではA 評価が 80%を超え，信頼される学校づくりが進んでいるといえる。
改善策	・「危機管理マニュアルの理解」は，今後予想される南海トラフ地震等に備え，いざというときにどのように行動できるかマニュアルの内容を事前に把握しておく必要がある。どのような状況になっても必要な行動がとれるよう判断力を醸成する。 ・「校務支援システムの活用」については，昨年度より導入され有効に活用されるようになってきている。今後はさらに活用し，業務改善につなげたい。 ・「業務の効率化と働き方改革」については，ICT 機器を有効に活用することで業務の効率化を図るとともに，会議を減らし時間外勤務時間を減らす取組を行って行く。 ・「校内研究に主体的に関わっている」についても，肯定的な回答が昨年度より 16 ポイント上昇した。コロナ感染症予防のため十分な時間の確保ができないことや研究への関わり方などについては課題が残るが，一人一台端末の導入により職員の研修に対する関心が高まっている。今後も校内研修会の機会を増やし教員の資質向上に励みたい。 ・今年度も，学校ホームページ，たより，安心メールを活用し，学校の様子や学校からのお知らせを随時更新し配信することができた。この取組は本校の特色として継続したい。 ・「保護者や地域からの声に耳を傾ける」については，肯定的な回答が多かったが，もっと耳を傾けて欲しいという家庭もあった。家庭との連絡を更に密にしていきたい。 ・保護者が「PTA 活動に参加する」「地域の行事に参加する」については昨年度より 10 ポイントほど低下した。感染症が原因の１つと考えられるが，今後も同様な状況が考えられるので，オンラインでの交流など，様々な工夫をして対応したい。

Ⅲ　学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	・職員の自己評価では，ＡＢの肯定率が5項目で100%，残りの2項目も97%で高い意識がわかる数値であった。特に，「個に配慮した基礎基本の定着を図る授業行っている」ではＡの肯定率が46ポイント上昇し，日々の教育活動を通して質の高い教育を目指し，確かな学力を育てる授業実践に努めていることがうかがえる。 ・全校児童の「先生はよく勉強を教えてくれる」「国語・算数の内容はわかりますか」については，ＡＢ肯定率が昨年より10ポイント高く，保護者も「学校は熱心に授業に取り組んでいる」について肯定率が93%を超えていた。 ・「豊かな心を育む授業」については，教師のＡ肯定率が昨年度より40ポイント上昇し，同道徳の授業に対する授業の取組や工夫など意欲の向上が見られた。 ・「家庭学習」については，教師・児童とも昨年とほぼ同じ傾向であった。ただ，コロナ禍における家庭での自粛生活が長かったためか，家庭でゲームやタブレットなどを見る機会が多くなり，コロナ禍における自粛生活の疲れなどの影響が感じられる。
改善策	・授業改善の工夫に引き続き取り組み，「わかる・楽しい授業」を実践する。 ・新学習指導要領に対応したカリキュラムマネジメントを行い，発達段階に応じた系統的・横断的な授業実践を進めることで，学習内容の一層の定着を図る。 ・「学びの意欲を喚起する」ために，今年度整備された GIGA スクール構想の一人一台端末による ICT 機器を積極的に利用するとともに，主体的・対話的で深い学びを目指し，生きる力の醸成に取り組んでいく。 ・個に応じた指導（繰り返し指導，ドリル学習，その子にあった課題の与え方，支援員の効果的な活用，ユニバーサルデザインを活用した授業等）により基礎的基本的な知識・技能の確実な定着を図り，わかる喜びをもたせる指導をしていく。 ・「学校の授業は楽しくない」「授業がわからない」と感じている児童が 1%未満でもいることや，保護者の学校の熱心さに対するＡ肯定率が 26%であることから，今後も「わかる授業」「楽しい授業づくり」に積極的に取り組み，教師の授業力向上を図っていく。
Ⅳ　生徒指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	・生徒指導について職員のＡＢの肯定率は，4 項目が 100%，２項目が 90%以上であった。全てのＡ肯定率が昨年度より向上しているが，特に「問題行動（いじめ等）への早期発見・早期対応」については，職員のＡ肯定率が昨年度より 30 ポイント上昇した。問題行動の発見もアンケートによる調査ではなく，職員による発見や聞き取りによるものが多かったことから，職員が子どもの様子をよく見ていることがうかがえる。コロナ禍における接触を自粛するなかでの指導の難しさはあるが，今後も全職員で生徒指導上の課題を組織的に取り組むための共通理解を図っていきたい。 ・生き方教育（キャリア教育）は，職員のＡ肯定率が昨年より 16 ポイント向上したが，他の項目と比較すると 37.9%と最も低い数値となった。今年度はコロナ禍によって，校外学習や外部講師の招聘などが難しく予定していた計画が実施できなかったことも原因の一つと考えらえる。今後は「キャリアパスポート」を有効に活用しながらキャリア教育を推進し，児童が将来の見通しを持ち，地域を支える人材となるよう積極的な取組が求められる。 ・児童アンケートの「学校が楽しい」「仲の良い友だちがいる」「困ったことがあったら相談できる友だちがいる」「困ったことがあったら相談できる先生がいる」については，昨年度よりポイントが向上し多くの児童が肯定的であった。しかし，否定的に感じる児童もいることから，児童理解をきめ細かく行っていく必要がある。また，保護者アンケートでの「学校は楽しい」「相談できる友だちがいる」「相談できる先生がいる」についても同様である。 ・朝食については，ほとんどの児童が食べて登校している。しかし，食べてきていない児童も数人いることから，家庭との連絡を取る中で改善させていく必要がある。

改善策	・「問題行動への迅速な対応」について，日頃からの取組として，児童の様子の変容を捉える意識を持つ，教職員同士の情報交換を密にする，児童からの情報をしっかり受け止める等引き続き意識する。また，いじめについては，未然防止に努めるとともに，いじめアンケート等から，いじめの有無を確認し，組織的に迅速且つ適切な対応を行う。事案によっては家庭と連携して対応する。 ・「生き方教育〔キャリア教育〕の実施」について，新しい取組を展開することではなく，学校生活全般のなかで，キャリア教育として意識できるところの共通意識を持つことが必要。また，キャリアパスポートを生き方教育の柱と位置づけていく。 ・児童一人ひとりが主体的に参加し活躍できる「わかる授業づくり」や「信頼される集団づくり」など自己有用感や自己肯定感を育む教育活動の充実を図っていく。 ・担任だけでなく，全職員で全校児童とのふれあいの機会を持つように心がけるとともに，PTA 活動を通して保護者との交流を図りながら，児童や保護者から相談しやすい教師とワンチームとして教育目標を具現化する学校を目指す。 ・普段から児童とのコミュニケーションを深め信頼関係を醸成するとともに，児童の変化をきめ細かく見取り，児童の情報と指導方針を共有し合うことで，全職員が同じ歩調で対応できるようにする。 ・ユニバーサルデザインをもとに，しっかりと学習に取り組む学習習慣と，きまりを守り，清掃をしっかりするなどの生活習慣，仲間づくり等，当たり前のことを当たり前にできる児童の育成を全職員で取り組んでいく。
Ⅴ　地域との連携について	
達成状況	・地域との連携については，コロナ禍ということもあったが，職員のＡ肯定率は昨年度に比べ向上した。特に「地域人材や施設を活用し，地域の教育力を生かす指導」「地域と連携した児童の安全確保」については，Ａ肯定率が 20 ポイント高く，「地域の要望を聞く」「開かれた学校づくり」については 50 ポイント向上した。 ・「地域人材の活用」は各学年で人材を依頼しているが，今年度は 6 年生で「プログラミング学習」などを実施した。今後も地域人材を発掘活用するように連携・協働を進めていく。 ・ホームページや学級・学校だよりをはじめ，図書・保健・給食・研究だよりなど各担当からも保護者への情報発信を行い，開かれた学校づくりに努めてきた。しかし，保護者アンケートからはＡ肯定率は依然と 12%と低く，今後も子ども達の活動の様子を伝える新しい情報の更新を随時行っていきたい。 ・ＰＴＡ活動もコロナ禍ではあったが，今後も無理のない範囲で実施していきたい。
改善策	・家庭や地域に開かれ，信頼される学校づくりの推進のため，必要な情報を積極的に発信していくとともに，地域教材や人材を教育資源として取り入れ，地域の教育力を生かす教育活動に取り組んでいく。そのために，学習ボランティアや地域人材によるゲストティーチャーを積極的に活用し，地域との連携・協働を推進する組織づくりを今後も進めていく。 ・ホームページを学校活動紹介の発信源の一つとして地域に周知し，閲覧者数が増えるように今後も更新回数を増やし，内容の充実や広報活動に努めていく。
Ⅵ　学校の特色に関して	
達成状況	・「読書活動」「学校行事」「ICT 機器の指導」等，すべての項目に対し職員は高い肯定率であった。 ・ファミリータイムや運動会をとおして，児童の縦の関係づくりに力を入れている本校にとって，全員の教職員が肯定的な回答であった。特にＡ肯定率は昨年度に比べ 16 ポイント上昇し，4 項目中最も高い
改善策	・読書活動に力を入れているが，引き続き，読書活動推進に取り組んでいく。 ・歌声が響くよう音楽委員会を中心に選曲し朝の会で歌っていたが，コロナ禍であるため自粛している。今後は全校で合唱をする取組ができることを期待したい。

Ⅶ　創甲斐教育について	
達成状況	・「基礎的な国語力や言語活動の充実」については，肯定率が 100％であり，毎日の授業で話し合いや討論，発表などを取り入れた教育活動に取り組んでいることがわかる。 ・「思考ツールを活用した対話的な深い学びの充実」や「児童の体力向上や運動習慣の形成」でも，肯定率がおよそ 95％と高い数値であり，概ね達成できている。
改善策	・主体的・対話的で深い学びを実現するために，話し合い活動を各教科取り入れているが，コロナ禍により対面での話し合いを控える場面も多々ある。今後も校内研究会等で研修会を行い，言語活動や自己表現活動を意識した教育活動を継続していく。 ・「体力向上」については，数値的には表れていないがコロナ禍で運動する機会が減少したことによる体力低下など課題があるが，今後も体力向上への取組は続けたい。

３　まとめ

〈成　果〉

・「学校教育目標・学校経営」について，学校教育目標，学校経営方針に基づき，児童や地域の実態にあった教育実践が行われた。
・「学校運営」について，「職員会議」や「校内研究」に主体的に取り組み，ワンチームとして相互理解や信頼関係を深めた教育活動にあたる姿がうかがえた。
・学習指導や生徒指導等において，個の発達段階に応じた指導が行われている。また，ファミリータイムにおける縦割り活動やモジュールによる国語の授業，ＴＴ指導や支援員との連携によるきめ細かな指導等による学力向上の成果が出ている。
・「生徒指導」について，職員間の報告・連絡・相談・確認の指導体制の徹底が図られている。保護者との連絡調整・関係機関との連携は着実な成果を上げている。
・「地域連携」について，学校ホームページでの情報発信や，学級・学校だよりを始め，図書・保健・給食便り等の発行により適切な情報提供がなされ，保護者や地域に学校の教育活動の様子などを伝える広報活動が行われている。
・「学校の特色」に関して，あいさつ運動・読書活動・縦割り活動・ドレミファタイム・スポーツタイム等，本校の児童の実態に合った取組が行われている。

〈課　題〉

・今後もＰＤＣＡサイクルを通した教育実践と評価の具現化を図る。
・危機管理意識の高揚と，報告・連絡・相談・確認の徹底を継承する。
・情報管理に対する意識をさらに高める。
・学びの意欲を喚起し，質問や意見が出る授業づくりをさらに推進する。
・ICT機器の積極的な利用と，主体的・対話的で深い学びを目指した教育実践を進める。
・カリキュラムマネジメントを意識したスパイラルな授業実践を進めることで，学習内容の一層の定着を図る。
・英語・プログラミング学習・道徳等，学習指導要領の趣旨に沿った実践に向けた工夫を具体化させる。
・児童の実態に合わせ，様々な生き方教育（キャリア教育）を実践する。
・保護者や地域に信頼される教育活動を実践する。
・小中連携については，9 年間で子どもたちを育てるという意識を高め，具体的な場面での連携を図っていく。
・確かな学力の育成のためにはゆとりある授業時数の確保が必要である。子どもたちに必要な力は何かを考え，行事や諸活動の改善や見直しを検討していく。
・当たり前のことが当たり前にできる児童の育成をめざし，全職員の共通理解のもと子どもたちの指導にあたる。
・心を育てる指導を行い，心のこもったあいさつが自然にできるような子どもを育てる